

「看護の視点が薬物治療を変える!!」

「クスリの効き方には
なぜ**個体差**があるのか」

～ひとりひとりの患者さんの違いを大切にする看護のために～

開催日時

2019年 **8月20日**(火) 14:45~16:15

開催場所

グランキューブ大阪 (大阪府立国際会議場 第3会場 10F(1008))
〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51

講師

藤尾 慈 先生大阪大学薬学研究科臨床薬効解析学分野 教授
(兼)医学系研究科循環器内科学

座長

柳田 俊彦 先生宮崎大学 医学部看護学科臨床薬理学 教授
日本薬理学会 企画教育委員会委員

お問い合わせ先

一般社団法人日本看護研究学会 第45回学術集会事務局
e-mail: jsnr45@osaka-med.ac.jp

クスリは、通常、長い時間をかけて、動物実験や臨床試験を通して有効性と安全性とが確認され、国から承認を受けて、日常の臨床で使用できるようになります。しかしながら、実際に臨床で使用されるようになり、そのクスリを適応が認められている病気の患者さんに投与しても、すべての患者さんで有効であるということはありません。また、安全性が確認されているはずなのに、何人もの患者さんに対して使用しているうちに、不幸にも、必ず副作用で苦しむ患者さんが出てきます。なぜか？

その答えの一つは、クスリの効き方に個体差があるためと考えられています。そして、個体差の原因は、飲食物や嗜好品、併用しているクスリといった外的要因(広い意味での「飲み合わせ」)と、年齢や臓器障害、遺伝といった内的要因(患者さんに備わった属性)という観点から理解されています。このセミナーでは、クスリの効き方の個体差がどのようにして生じるかを議論したいと思います。前半では、外的要因に関して、併用に注意しないとイケないクスリの組み合わせを紹介したいと思います。後半では、内的要因として、遺伝的要因によって効き方が大きく影響を受けるクスリの例を示したいと思います。

このセミナーが、皆様の明日からの看護に役立てば幸いです。